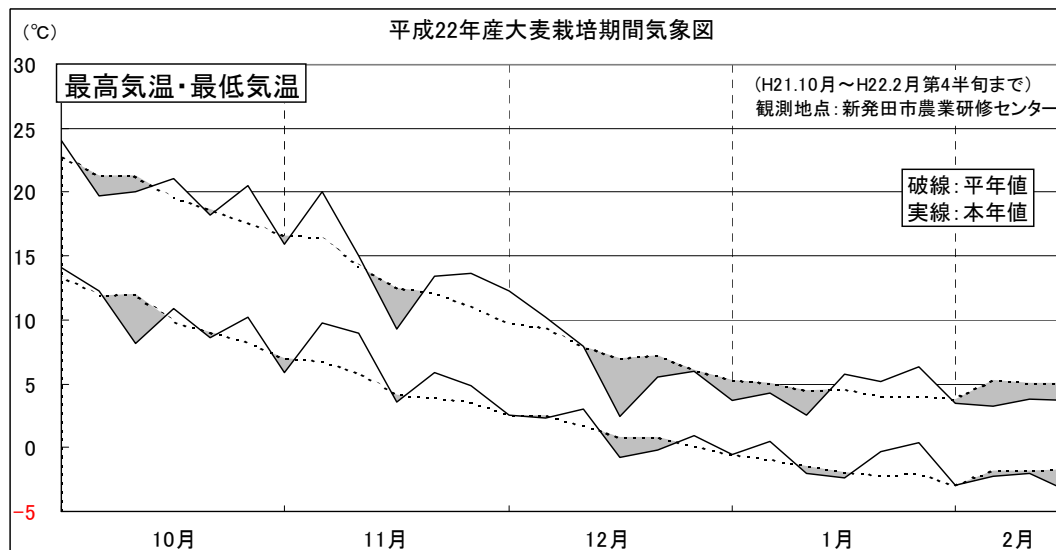


平成22年産大麦品質向上技術対策について

平成22年2月23日

新発田農業普及指導センター

1 気象状況



参考 1カ月予報 (2月20日～3月19日) : 気温の高い状態が続く見込み。(高い確率70%)

2 当面の対策 (越冬後) ～高品質の麦生産を目指しましょう!～

今後、気温の高い状態が続くと消雪が早まる可能性があります。
消雪後は排水対策の徹底と、生育量にあった追肥を実施することが主な作業になります。

(1) 排水対策 ～ 至急! 麦の体力を取り戻す環境づくりが必要 ～

湿害が生じた状態では追肥の効果は見込めないため、早急にほ場内の水がはけるように排水対策を実施する。

- 【確認事項】
- ① 暗渠排水の栓が全開か確認する
 - ② 溝と溝を連結する
 - ③ 排水溝を広げるなど排水管理を徹底する

(2) 消雪後追肥 ～ 分けつの有効化を促し、収量確保と品質向上 ～

○施用時期：平均気温4～5℃で施用効果が現れることから消雪後速やかに実施する。

○施用量：チッソ、カリ 3kg/10aを目処に施用(生育量に合わせて加減する)

○注意事項：消雪後、ほ場の排水対策を確実にしてから施用する

【消雪後追肥の意義】

- ・長い積雪下の生活で衰弱したムギの回復を早める。
- ・分けつの有効化を促し、穂数を増やし、幼穂の発育を促して1穂粒数を多くし、1粒重を大きくする。

【参考：全面表面播の特徴】

種子の位置が浅いため分けつ数が多く、茎数は多くなり有効茎歩合が低下しやすい。

(3) 雑草対策

・すでに雑草が多く見られるほ場は、越冬後に茎葉処理剤を散布する。

※ 農薬の使用に当たっては、登録内容を確認の上適正に使用しましょう。